

## 令和5年度笑顔と学びの体験活動プロジェクト

令和6年3月25日（月）に、目標達成を目指して取り組み、成果を挙げられている方をお招きしました。1年生全員がお話を伺い、代表生徒がマット運動の御指導をいただきました。

講師の**中瀬 卓也さん**は1982年滋賀県生まれ、9歳で体操を始め、中学生から大学生まで輝かしい活躍をされ、2008年北京オリンピックの体操・団体総合決勝では見事な演技でチームに貢献し銀メダルに輝きました。現在は日本体育大学・体操競技部の男子監督を務め、パリオリンピックに向けての日本体操男子の強化にも励んでいます。

講演は、生徒の目線に立って子供の頃の話から始まりました。小学校4年生のとき、砂場に子供たちが集まっているのを見に行くと、バク転をしている友達がありました。その子が誘ってくれた教室に通い始めたのが、体操を始めるきっかけだったそうです。5年生のときは週6回練習に通い、夢中になっていきました。アテネオリンピックでは0.1点差で日本代表になれず、悔しい思いをしましたが、代表に選ばれた選手の真似をするように心がけて、力を付けていきました。2008年北京オリンピックに日本代表として出場した時は、ここで演技ができることを幸せに思い、人生の宝物だと思って取り組んだそうです。夢をかなえるためのアドバイスの1つ目は、本物に触れること—特別な人だと思わずに、自分も同じことをやってみること。2つ目は、応援される選手になること。生徒にも教員にも、身近に感じられるアドバイスでした。

実演では、少しもぶれない前転や後転などに続いて、倒立やバク転など、見事な演技を披露してください、中にはびっくりしてぼかんと口を開けている生徒もいました。クラス1、2名の代表生徒も、ドキドキしながら前転、後転そして開脚前転などの御指導をマットの上で体験し、「うまいですね」と誉められて嬉しそうにしていました。きれいな跳び箱の演技も見せてくださり、大きな拍手で体験の時間を終えました。

生徒からの「オリンピックの本番では、心の中で何を考えていましたか？」という質問に「緊張してはもったいない。失敗してもいいから、思いっきり楽しんで演技しよう、と考えていました。」と、力強いメッセージを伝えてくださり、最後に、一人一人にオリンピックのメダルを見せてくださいました。

終了後の生徒の感想には、「自分も、より向上心をもって様々なことに取り組もうと思います。」「体験は、どこに気を付けていいか意識できたので、思いっきり取り組みました。」「初めて後転ができました！」などが聞かれました。入学してから1年、進級への意欲が高まる笑顔と学びの体験になりました。

